

語り継ぐのは私たち



「みやぎ鎮魂の日」シンポジウムで意見を述べる生徒たち＝11日午前11時40分ごろ、東松島市の石巻西高

「子どもの視点」生徒ら教訓確認

みやぎ鎮魂の日

東日本大震災から3年防炎の教訓について意見となった11日、宮城県内は制定後初めての「みやぎ鎮魂の日」を迎え、犠牲者を悼む多くの行事や慰霊祭があった。子どもたちは、地域の追悼行事や学校の集会に参加し、震災の教訓を語り継ぐ意義や防災意識を高める大切さを学んだ。

石巻西高（東松島市）では「被災地から未災地への掲言」をテーマにしたシンポジウムがあり、生徒や住民ら約200人が参加した。

震災の記憶が風化しつつある現状を踏まえ、東松島市教委が企画。市内の中学校と高校の代表や、仮設住宅の自治会長ら12人の代表が、被災体験や今後の復興の現状について意見を述べた。中野卓哉主幹が生徒約400人を前に講演した。

「兵庫では阪神大震災を経験していない人が増えている。宮城の人々が将来に悲しい思いをしないよう、しっかりと語り継いでいかなければいけない」と語り、みやぎ鎮魂の日は県が昨年4月に条例で定め、アドバイザーを務めた兵庫舞子高（神戸市）の生徒が地域の行事に参加し、東松島市と連携して、みやぎ鎮魂の日を推進している。石巻、東松島両市は全公立小中学校も各校ごとにとりかちが災害に

(2014年3月12日河北新報朝刊)

- ①「みやぎ鎮魂の日」は、どのような目的で制定されたのですか。記事を読んで書きましょう。
- ②あなたの学校や地域でも、追悼式や慰霊祭、復興プロジェクトなどの催しが行われたと思います。どのような気持ちで参加しましたか。
- ③震災を風化させないために、あなたができることは何だと思いますか。考えて書きましょう。

年 組 名 前

(中学校／朝の会前などの10～15分で)